セゾンエアコン　据付説明書

FDRVP（セゾンインバータ）　40ZA～160ZA

PJR012D018

〈お願い事項〉

○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。

○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。

▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤作動の原因となります。

▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交の腐食の原因となります。

▶油の飛沫や蒸気の多い所(例：調理場、機械工場)、外気が流入しやすい所での据え付け､使用は避けてください。
熱交換機の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。

▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。
揮発性引火物を取り扱う所での据え付け、使用は避けてください。熱交の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

○溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあった場合、ユニットに損傷を与える可能性があります。
ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしてください。

⚠ 注意

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。

▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

▶アースを取ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、誤動作や感電の原因になることがあります。

▶漏電ブレーカの取り付けが必要です。漏電ブレーカが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。

▶エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動運転音増大の原因になります。

▶冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度(0.3kg／m³)を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取り付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない､暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない､暖まらない	

機種		電気ヒータ容量 kw（オプション）
標準機シリーズ	ハイパーインバータシリーズ	
40～56	40，45	1.8
63，71	—	2.1
80	50～63	2.3
112	71，80	3.0
140，160	112～160	3.6

※インバータシリーズの単相機にはオプション電気ヒータは設定されていません。

① 据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付属品

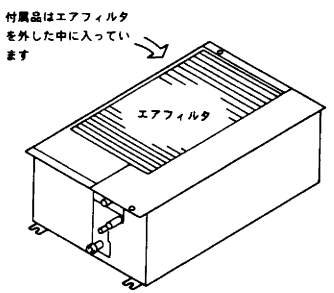
① ドレン配管用

1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

② フレアナット部断熱用

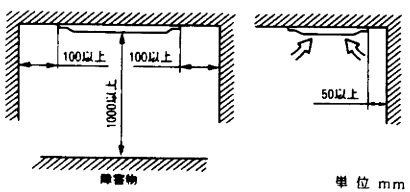
1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

付属品収納場所
（梱包時）



② 室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



単位 mm

お願い

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
○冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますのでサーキュレータの併設をご指導ください。
○室外への配管、配線のしやすい所。
○ドレン排水が完全にできる所。
○据付部の天井が強固である所。
○吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
○周囲の露点温度が28°C以下、相対湿度80%以下の所。

（高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、結露に対する配慮をしてください。
本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認されておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体のすべての配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）

2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
3．天井裏高さが下記の高さを有する所。

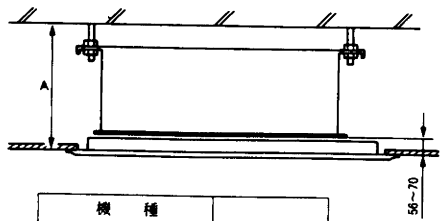
機種			
機種	標準機シリーズ	40～80	112～160
	ハイパーインバータシリーズ	40～63	71～160
サイレントパネルとの組合せ		365mm	416mm
キャンバスパネルとの組合せ		459mm	510mm

③ 天井裏への吊り込み準備

吊り込みのパターンの選定

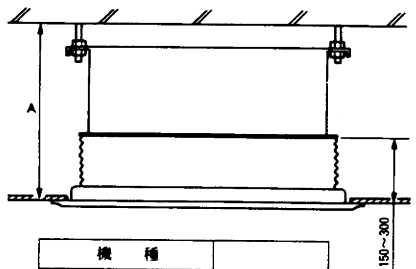
据付場所の状態によりパターンを決定してください。

〈サイレントパネルとの組合せ〉



機種		A
標準機シリーズ	ハイパーインバータシリーズ	
40~80	40~63	365mm以上
112~160	71~160	416mm以上

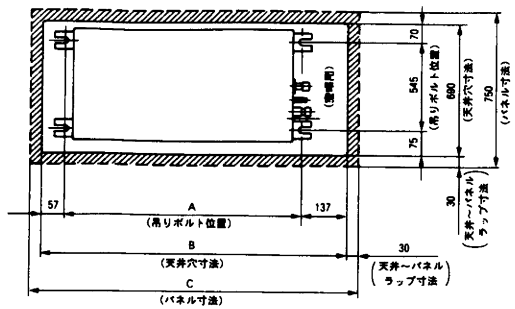
〈キャンバスパネルとの組合せ〉



機種		A
標準機シリーズ	ハイパーインバータシリーズ	
40~80	40~63	459mm以上
112~160	71~160	510mm以上

天井穴及び吊りボルト位置

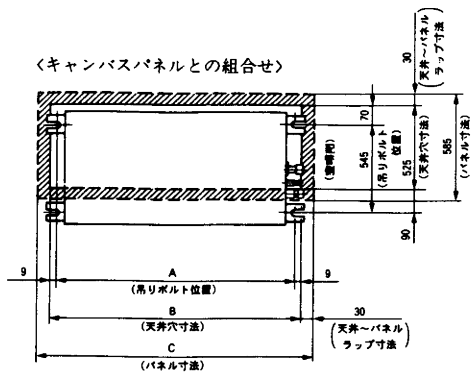
〈サイレントパネルとの組合せ〉



〔単位:mm〕

機種		A	B	C
標準機シリーズ	ハイパーインバータシリーズ			
40~56	40, 45	786	980	1040
63~80	50~63	986	1180	1240
112~160	71~160	1406	1600	1660

〈キャンバスパネルとの組合せ〉



〔単位:mm〕

機種		A	B	C
標準機シリーズ	ハイパーインバータシリーズ			
40~56	40, 45	786	804	864
63~80	50~63	986	1004	1064
112~160	71~160	1406	1424	1484

⚠ 警 告

- 据え付けは重量に十分に耐える所に確実に行ってください。
- 強度不足や取り付けが不完全な場合には、ユニットの落下によりケガの原因になります。

④ ユニットの搬入、据付

搬 入

お願い

○搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。

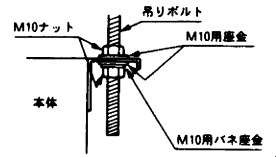
○やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングまたは、ユニットを傷つけないよう当て板をしてロープで吊り上げてください。

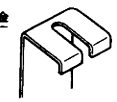
○解梱後ユニットを置く場合は必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据 付

〈吊り込み〉

○ユニットを吊り込んでください。



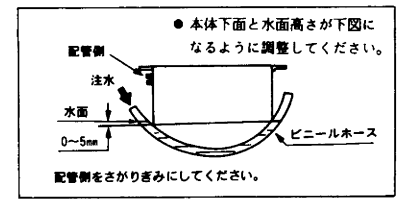


○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

水平度の調整

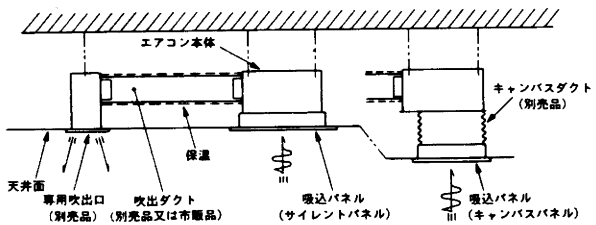
お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行なってください。



○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

⑤ ダクト工事



お願い

○風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

①吹出ダクト

- φ200円形ダクトにより、下表に示すスポット数で使用してください。

機種				
標準機シリーズ		40～56	63～80	112～160
ハイパーインバータシリーズ		40，45	50～63	71～160
スポット数		2	3又は2	4又は3

- 各スポット間のダクト長さの差は、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなる様施工してください。

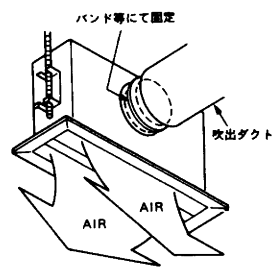
お願い

- 曲りは極力少なくしてください。（曲げRは極力大きくしてください。）

悪い例　悪い例　良い例

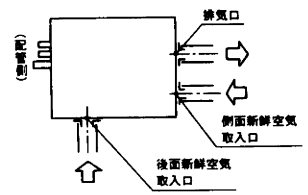
- 本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行なってください。
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。（別売品1m、2m、4mがあります。）
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吹出口



- ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行なってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行なってください。

③給・排気ダクトの接続



ⓐ新鮮空気取入

- 後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
- 同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。（側面は使用不可）

ⓑ排気（必ず給気を併用してください。）

- 側面排気口を使用してください。

ⓒダクト接続

- 別売品の給排気用ダクトフランプ(φ125丸形ダクト接続用）を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください（バンド締め）。
- ダクトは結露防止のため、保温してください。

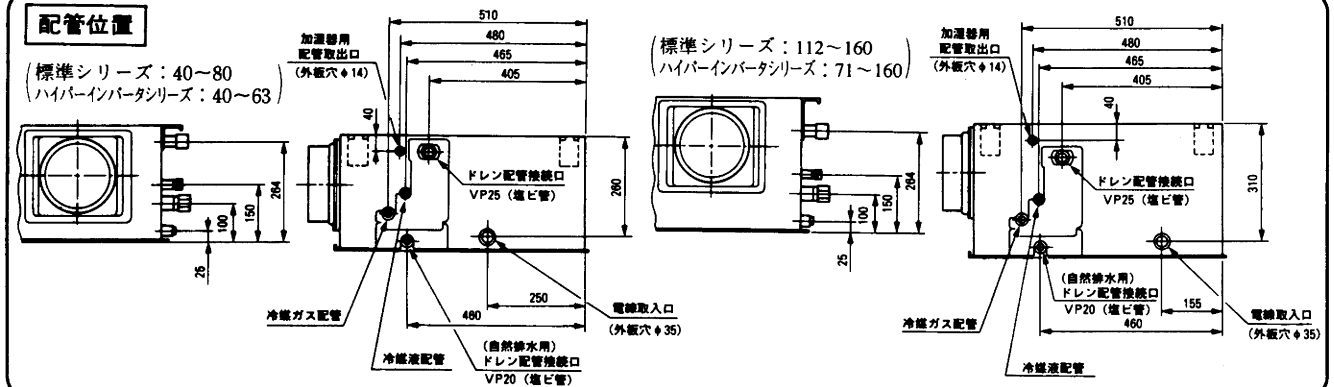
ご案内

4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いずれかを塞いでください。

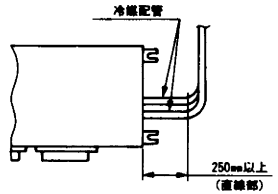
（注：2スポットから1スポットへの改修は、行なわないでください。）

⑥ 冷媒配管 は別紙の冷媒配管説明書をご覧ください。

配管位置



配管工事



お願い

冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行なってください。

（ドレンポンプのサービスに必要です。）

冷媒配管時の注意事項

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し、水漏れします。

●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません）

●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）

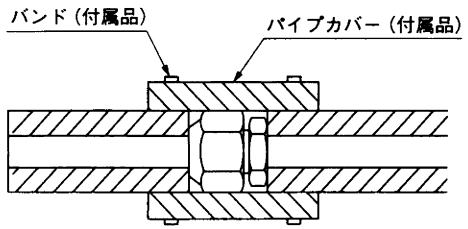
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。

●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

フレアナット締付トルク

φ 6.35： 14～ 18(N・m), (1.4～1.8kg・m)
φ 9.52： 34～ 42(N・m), (3.4～4.2kg・m)
φ 12.7： 49～ 61(N・m), (4.9～6.1kg・m)
φ15.88： 68～ 82(N・m), (6.8～8.2kg・m)
φ19.05：100～120(N・m), (10～12kg・m)

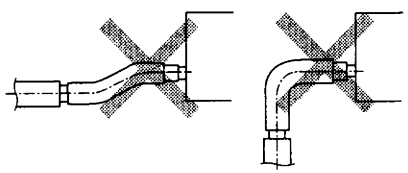


⑦ドレン配管

工事要領 （ツイン機、トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。）

●付属のドレンホースとVP25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。

●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げて使用された場合、破損し、水モレに至る場合があります。



●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。

●付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
〈接着剤使用不可〉

●ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25（現地手配）を接着・接続してください。

●ドレン配管は下り勾配(1/50～1/100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。

●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。

●エア抜きは絶対に設けないでください。

●ユニットから出たドレン配管を下がり勾配としないでください。エアーが溜りユニット停止時の音の発生原因となります。

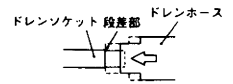
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

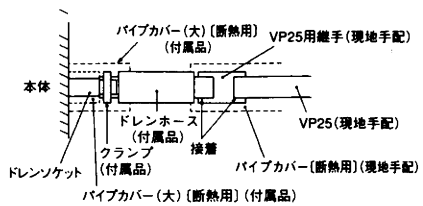
●結露が発生し、水洩れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。

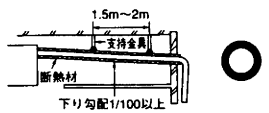
▶ドレンソケット部
排水テスト実施後、パイプカバー(小：付属品)をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。

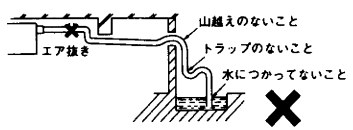
▶室内にある硬質塩ビパイプ

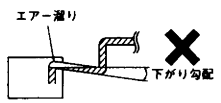
●室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
●ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

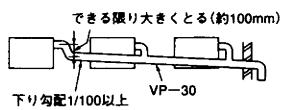






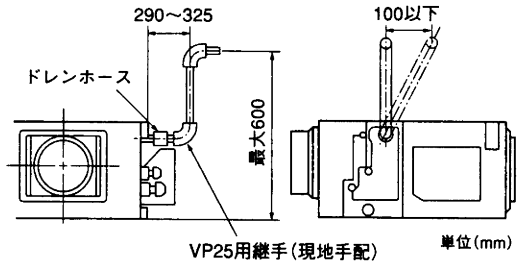






★ドレンヘッド高くしたい場合

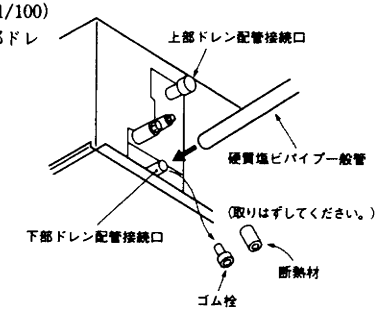
●ドレン配管の出口高さは、サイレントパネルの場合は、天井面より65cm、キャンバスパネルの場合はユニット下面より60cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、下図の寸法内で処理願います。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

下部ドレン配管工事要領 〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配(1/50～1/100)が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



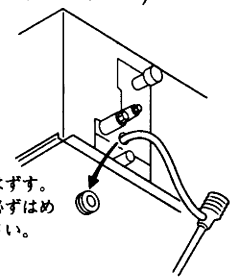
○配管施行後ドレンがスムーズに流れるか確認してください。

●電気工事が終了している場合

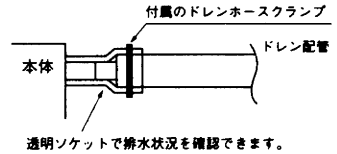
1）下図要領にて約1000c.c.の水を入れてください。

注水ホースを20mm～30mm位差し込んで注水してください。

（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）



2）冷房運転をしながら排水をチェックしてください。



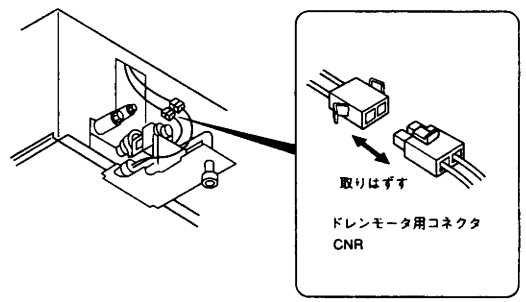
●電気工事が終了していない場合、排水管つなぎ込み部に凸形継手を接続し注水口を設けて配管系統のもれ及び排水状況の確認をしてください。

○排水テスト後本体部まで配管の断熱をしてください。

〔ドレンモータ用のコネクタの取り外し〕

下図に示すようにドレンモータ用コネクタCNRを取りはずしてください。

（注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水洩れとなります。）



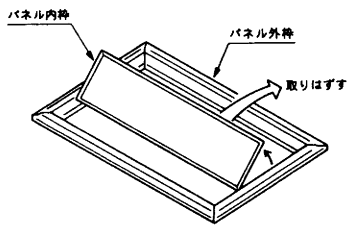
⑧パネル取付

サイレントパネルの場合

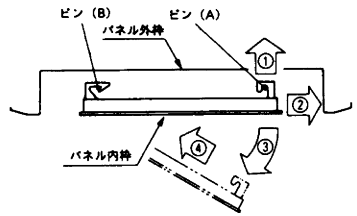
〈付属品〉

丸小ねじ（M5×35）		4個	パネル取付用

①パネル内枠を外してください。

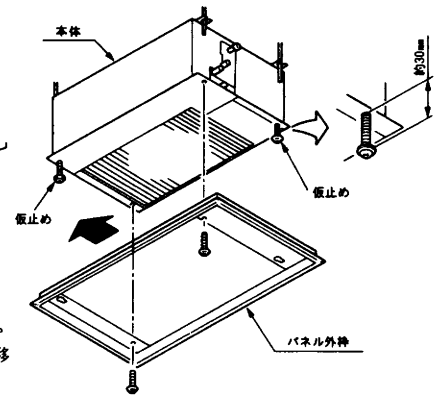


〈パネル内枠の外し方〉



ⓐ矢印①→②順でピン(A)より外してください。
ⓑ矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。

②パネル外枠を本体に取付けてください。



ⓐパネル取付ねじ（パネル付属品）4本の内2本を図のように仮止めしてください。
ⓑパネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
（注）パネル外枠の装着には方向性があります
ⓒ仮止めしたねじ及び残りのねじ（2本）を締付けてください。
ⓓパネル内枠を①項で外す逆の要領で取付けてください。

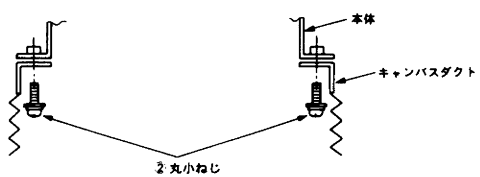
キャンバスパネルの場合

注）キャンバスパネルの取付にはキャンバスダクト（別売品）が必要です。

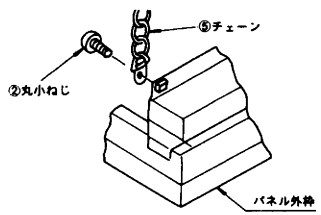
〈付属品〉

①	丸小ねじ（M4×16）		4個	パネル固定
②	丸小ねじ（M5×16）		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③	丸小ねじ（M5×25）		4個	チェーン固定
④	ホルダー		4個	
⑤	チェーン		4個	

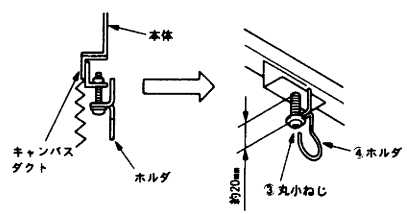
①キャンバスダクト（別売品）を本体に取付けてください。（4ヶ所）



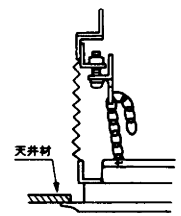
②パネル内枠を上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。
③パネル外枠にチェーンを取付けてください。（4ヶ所）



④パネル外枠を取付けてください。
ⓐホルダを下図に示すように仮止めしてください。

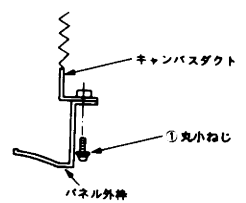


ⓑパネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注）チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行なってください。

ⓒパネル外枠を天井材と密着するまでⓐ項の③丸小ねじにより吊上げてください。
ⓓキャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。



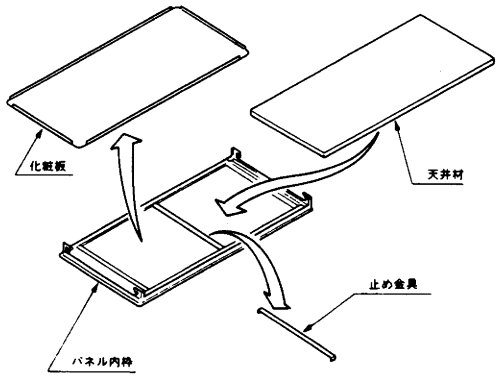
⑤パネル内枠を上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

天井材の取付け

パネル内枠には天井材を取付けることができます。
（板厚　最大15mm）

天井材サイズ

	パネル形式	天井材
キャンバスパネル	R-PNLC-26W	756×330
	R-PNLC-36W	956×330
	R-PNLC-46W	1376×330
サイレントパネル	R-PNLS-26W	932×495
	R-PNLS-36W	1132×495
	R-PNLS-46W	1552×495



①止め金を外してください。
②化粧板を外し天井材を取付けてください。
③はじめに外した止め金具を天井材を押え込んで取付けてください。
注）天井材取付時、化粧板は不要になります。

セゾンエアコン　電気配線工事説明書

FDRVP（セゾンインバータ）　40ZA～160ZA

RJR012D016

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注　意

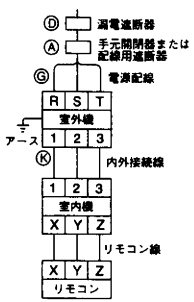
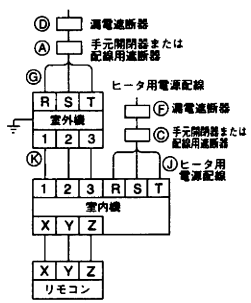
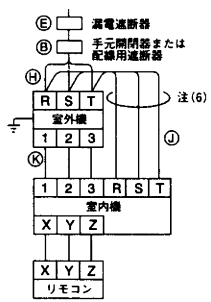
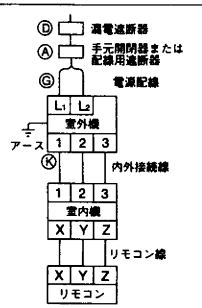
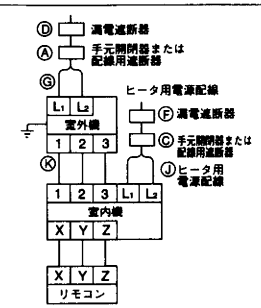
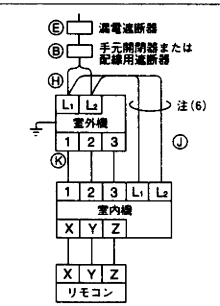
●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。

●電源には必ず漏電遮断器を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

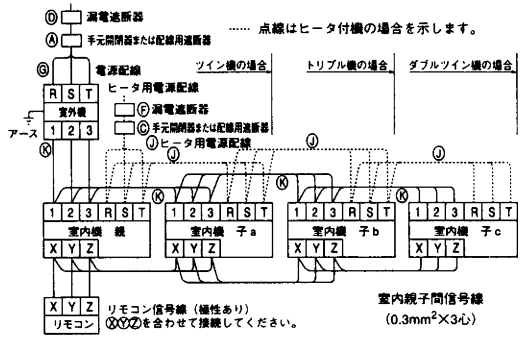
●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りはできません。（ヒータ用電源は除く）
※例外的な接続方法の場合は所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

	ヒータレス（含む冷専）	ヒータ後付時 標準的な接続方法	ヒータ後付時 ※ 例外的な接続方法
三相機			
単相機			

ツイン・トリプル・Wツイン機の結線



①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW1により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5－1,SW5－2により、子a～子cに設定してください。（下の表）

④電源投入後、コントローラ（リモコン）の「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がコントローラ（リモコン）に表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機 親	室内機 子a	室内機 子b	室内機 子c
室内基板アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

注(1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)	アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
標準機・ヒータレス（含む冷専）	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m		φ1.6	M5
		P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	32m		φ1.6	M5
		P140・P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm²×3	23m		φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)	アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータレス	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		PV63・PV80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m		φ1.6	M5
		PV112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	23m		φ1.6	M5
		PV140・PV160		30A	30A	30A	5.5mm²×3	23m		φ1.6	M5

〈シングル機：ヒータ後付時〉

注(4)ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(5)配線こう長は、電圧降下２%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(6)室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
標準機・ヒータ後付時	単相	P40～P56	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×2	22m	φ1.6×2	20m	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	25m	φ1.6×3	41m	φ1.6	M5
		P63			30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	23m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P80	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	32m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	21m	φ1.6×3	24m	φ2.0	M5
		P140・P160	50A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm²×3	24m	φ1.6×3	20m	φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータ後付時	三相	PV40・PV45	20A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	25m	φ1.6×3	41m	φ1.6	M5
		PV50・PV56			30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	23m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		PV63	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	28m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		PV80			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	27m	φ1.6×3	24m	φ1.6	M5
		PV112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	18m	φ1.6×3	21m	φ2.0	M5
		PV140・PV160			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm²×3	26m	φ1.6×3	21m	φ2.0	M5

〈ツイン・トリプル・Wツイン機：ヒータ後付時〉

注(7)ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(8)配線太さⒿは20mまでの電圧降下(2%)を見込んであります。現地の配線が20mを越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
(9)室内機にヒータを装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

	室内ヒータ合計容量	漏電しゃ断器（A）	開閉器（A）	配線太さ φmm 又は mm² 注(8)
		Ⓕ	Ⓒ	Ⓙ
ヒータ後付時	4.3kw以下	15	30	φ1.6
	5.0kw以下	15	30	φ2.0
	6.9kw以下	20	30	φ2.0
	10.0kw以下	30	30	5.5

室外形式	アース線	
	太さ φmm 又は mm²	ねじ
80	φ1.6	M5
112・140	φ2.0	M5
160	5.5	M6

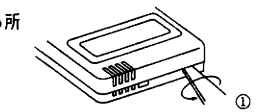
Ⓑ リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

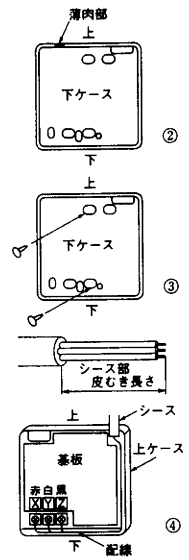
1) 直射日光の当たる場所
2) 発熱器具の近く
3) 湿気の多い所・水の掛る所
4) 取付面に凸凹がある所



取付要領

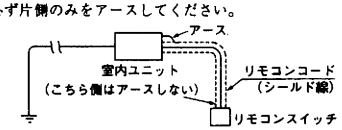
露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して整等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

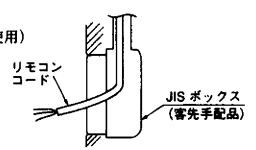
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心（MVVS3C（京阪電線））
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



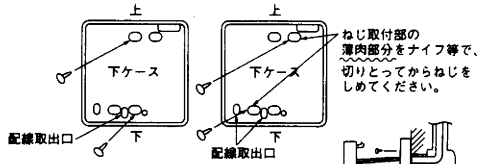
埋込取付

①JISボックスとリモコンコード
（延長の場合はシールド線を必ず使用）
をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336
1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス



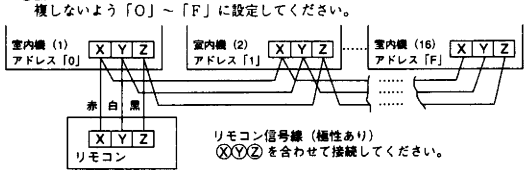
1個用スイッチボックスの場合　2個用スイッチボックスの場合



②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
「露出取付」の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。

Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御

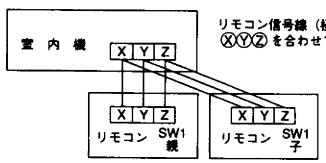
室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



③電源投入後、リモコンの「エアコンNo」を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

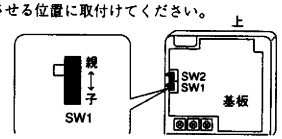
Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW 1	親	親リモコン
	子	子リモコン



Ⓔ 機能の設定

設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

本機の設定可能項目と工場出荷時の設定は下記の通りです。

（1）リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	ｸﾞﾘﾙ昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気運動	
		換気非運動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ速調	ﾌｧﾝ3速	○
		ﾌｧﾝ2速	
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専/ﾋｰﾎﾟﾝ	ﾋｰﾎﾟﾝ	○
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

（2）室内機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可/禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正+3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾚﾝﾄﾞﾚｰﾀ非連動	○
		ﾄﾚﾝﾄﾞﾚｰﾀ連動	

（1）リモコン機能の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、（2）室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

Ⓕ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。
1．ドレンポンプ強制運転の開始
①「試運転」ボタンを３秒以上押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
②「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
③「セット」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示：「ドレンポンプ運転」→「セット」で停止」
2．ドレンポンプ運転の解除
④「セット」ボタン又は、「運転／停止」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

Ⓖ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。
1．冷房試運転の開始
①「運転／停止」ボタンを押して、運転します。
②「運転切換」ボタンにより、「冷房」を選択します。
③「試運転」ボタンを３秒以上押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
④「冷房試運転▼」の表示で、「セット」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。
2．冷房試運転の解除
「運転／停止」ボタン又は、温度設定▽△ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
①「点検」ボタンを押します。
「項目◆で選択」→「セット」で決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
②「運転データ表示▼」の表示で、「セット」ボタンを押します。
③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
④「セット」により確定します。
（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）
↓
「運転データ◆」と表示され、01番のデータが表示されます。
⑤▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
⑥室内機を変更する場合は、「エアコンNo.」ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
⑦「運転／停止」ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、「リセット」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	ﾃﾞｰﾀ項目
01	運転ﾓｰﾄﾞ
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ﾌｧﾝ速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ﾄｰﾙ下温度
29	CT電流
31	室外ﾌｧﾝ速度
32	静音ﾓｰﾄﾞ有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	ﾃﾞﾌﾛｽﾄ ON/OFF
36	ｺﾝﾌﾟ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

Ⓗ 制御の切換

（注）□囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	追方運転入力（CnT）をレベル入力	SW9-1 SW9-2	オートリフトパネルの降下長さの設定
	開放	追方運転入力（CnT）をパルス入力		
J-2	短絡	暖房サーモOFF時弱風	SW9-3	OFF ――
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風		ON 応急運転（基板上のコネクタCnBも同時に抜く）
J-3	短絡	通常運転	SW9-4	OFF ――
	開放	追方運転入力（CnT）により運転制御		ON 高天井制御（ファン回転数アップ）
J-4	短絡	――		
	開放	暖房室温検知補正+3℃		

送風装置タップ切換

出荷時送風機は、標準タップ接続となっております。
高性能フィルタ等の取付により、静圧を上げる場合は、リモコンにより下記設定を行ってください。

①機能設定の「室内機能」を選択し、機能番号「01　高天井設定」を変更してください。
操作方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定	備　考
01	高天井設定	標準	○	標準タップ
		高天井1		高速タップ

MEMO